

オフィシャルイベント

第50回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール

JAPAN PRIZE 2023

会 期：2023年11月20日(月)～23日(木)
会 場：WITH HARAJUKU HALL
主 催：日本放送協会
対 象：国内外を問わず、教育に関心のあるすべての人々
公式サイト URL：https://www.nhk.or.jp/jp-prize/

総来場者数(参加数)：2,044人
内 訳：(国内入場者数(参加数)：1,352人 海外入場者数(参加数)66人 オンライン参加：692人)

■開催内容

NHKが主催する、教育をテーマにした番組や映像作品などの国際コンクール「日本賞」。第50回を迎えた今年は、11月20日(月)～23日(木)、東京・原宿のWITH HARAJUKU HALLを会場に「日本賞映像祭」を開催、セッションの生配信あるいはオンデマンド配信も行った。今年は、最優秀賞・優秀賞などコンクールの結果を事前に発表。海外から受賞者を招いたこともあり、44の国と地域からの参加があった。さらに番組制作者をはじめ、教育コンテンツに関心を持つ方も多く参加し、総来場者数2,044名(リアル参加1,352名、オンライン参加692名)と大盛況であった。

20日に行った開会式には、秋篠宮皇嗣殿下にご出席いただき、今年の幼児向け・児童向け・青少年向け・一般向けの各部門の最優秀賞・優秀賞、さらに特別賞などの表彰を行った。今年の「日本賞映像祭」の軸となったのは、「上映会&ディスカッション」。各部門最優秀賞および優秀賞作品を上映した後は、参加者同士でのディスカッション、続けて受賞作品の制作者と審査員が登壇。制作者は作品が生まれたきっかけや制作秘話を語り、審査委員は作品の評価ポイントについて述べた。参加者を含め、闊達な議論が行われ、活況を呈した。

また、予算・機材など制作条件が十分でない国・地域における教育番組の企画の実現を支援する「企画部門」ではモンゴル・ウクライナなど6か国の制作者たちがプレゼンテーションを行ったほか、第50回記念セッション「教育メディアの力を信じて」では、日本賞の歴史を振り返り、教育メディアに与えてきた影響や、時代を越えて受け継がれてきた価値、未来に向けた展望や課題について話し合った。

23日の最終日の授賞式では、各部門の最優秀賞4作品の中から選ばれた「グランプリ日本賞」と企画部門の最優秀賞・優秀賞を発表。今年の「グランプリ日本賞」には、イスラエル人監督とパレスチナ人プロデューサーの共同作品、ヨルダン川西岸地区でイスラエル軍によって逮捕される少年たちの姿を追ったドキュメンタリー「トゥー・キッズ・ア・デイ」が選ばれた。

■2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

これまでは、最優秀賞などの賞の発表を映像祭の最終日の授賞式で発表してきたが、2023年度はグランプリ日本賞と企画部門の最優秀賞・優秀賞以外は事前に発表。受賞者を東京にお招きし、受賞作品の上映会とディスカッションを開催した。上映後のディスカッションでは、制作者と参加者がくるま座になって感想や意見を述べ合い、多様な視点を共有することができた。続いて受賞者と審査委員がステージに上がり、作品が生まれた背景や制作上の挑戦、さらには審査を行う上での評価ポイントについて語った。このやり方により、受賞者と参加者が語り合い、多様な意見の交流を通じて学び、教育コンテンツの向上を目指すヒントを得られたのではないかと考える。参加者の満足度も高く、アンケートでは94.6%の参加者から「満足した」という回答が得られた。

